

令和 5 年度第 1 回斜里町総合教育会議議事録

I 開催日時 令和 5 年 12 月 27 日 (水)

開会 午後 3 時 50 分

閉会 午後 5 時 30 分

II 開催場所 斜里町役場応接室

III 出席者

【構成員】

斜里町長 山内 浩 彰

斜里町教育委員会

教育長 岡田 秀 明

職務代理者 長谷川 宏 文

委員 門田 眞由美

委員 佐々木 王 佳

委員 畑谷 あかね

【事務局】

総務部長 増田 泰

教育部長 馬場 龍 哉

企画総務課長 鹿野 能 準

学校教育課長 菊池 勲

企画総務課総務係長 代田 佑 輝

学校教育課 (指導主事) 大谷 展 生

IV 内容

1 開会

2 町長あいさつ (要旨)

・今年 5 月から町長になり、今回第 1 回の総合教育会議ということで、委員の皆さんの忌憚のない意見をいただければと考えている。

・先日、社人研の人口推計が発表され、斜里町の人口は減っていく中で、0 歳から 14 歳までの人口比率については、下げ止まりが予想されている。そうした中で多くの子ども達に斜里で過ごしてもらい、社会に貢献できるように育てていくことが重要であると考えている。

・本日の議題として第 7 次斜里町総合計画の策定について説明があるが、この計画と

あわせて町の教育面など、様々な事項について皆様のご意見を伺いたい。

3 報告事項

○「第7次斜里町総合計画の策定について」

4 詳細内容

(1) 第7次斜里町総合計画の策定について資料に基づき説明を行った。

●質疑等

・佐々木委員：体育施設の改修という話があったが、部活動の地域移行を含め地域の体育館だけでは対応できなくなっていると思う。総合体育館の建設を求める声も聞こえてくる。今後、斜里町の体育施設はどうなっていくのか。

・学校教育課長：「ゆめホール知床」を建設した当時、文化的施設を建設するのか、総合体育館を建設するのかといった議論になった経過がある。結果として基金を利用して「ゆめホール知床」を建設した。今後は斜里郡三町の広域で体育施設を、共有するといった形が現実的な流れになると考える。

・総務部長：中学校の部活動においても指導者の担い手不足が明らかであり、町の職員で指導能力を持っている者が、一般の業務とは別に部活動の指導を認めるという動きも出てきている。

・教育長：町職員が部活動支援を担えるのであれば、非常に良い試みであると考え。斜里町職員の募集に際しても、業務の一部として部活動の指導をできるといった職場環境を用意するとすれば、良い人材の応募につながるかもしれない。

・町長：定年延長が進んでいる中、働く時間や働き方も様々となっている。町職員だけでなく、地域貢献の一環として多くの方が、部活動の指導協力にあたるといった動きが出てくるのが望ましい。また、町の体育施設についても、新規建設だけでなく、既存施設にリノベーションを施すことも重要である。

・長谷川職務代理者：今回第7次斜里町総合計画の策定について話を受けたが、自身が第3次・4次総合計画の策定委員であり、当時意見を発しても通らなかった時代であった。斜里町の教育施設の特徴として、ゆめホールは町民と一緒に作っていこうというコンセプト、図書館については現館長が非常に奮闘しており、様々なアイデアで来館者数を増やしていると聞く。私は博物館が一番斜里らしい施設であると考えているが、先ほどの計画の中では博物館の改修等は記載がなかった。

・総務部長：総合計画に記載しているのは5億円を超える大型事業だけであり、博物館の改修については、中期計画に入っている。

・長谷川職務代理者：最優先でお願いしたい。

・町長：改修するのであれば、来館者が気持ちよく料金を支払ってもらえるような博物館を目指す必要がある。

- ・教育部長：周年のリニューアルに向けて協議を進めていく。
 - ・教育長：博物館の入館料について、町民の無償化を検討している。今年、試験的に産業まつりにあわせて無料開放したところ、多くの来館者があった。より多いの町民に博物館を利用して欲しい。
 - ・門田委員：高齢者にとっては住み心地が良いが、若い世代についてはそうでない結果となっている。今は学びの機会を求めての転居も珍しくない時代となっている。逆に移住者に対して斜里町ではこうした学びの機会があるという宣伝が必要である。

また、私を感じるのには斜里町にはとてもいいところがあるけれど、宣伝があまり上手ではないと感じる。そのあたりの工夫があればよいのではないかと。
 - ・町長：若い世代の満足度の低さについては、今は情報発信源が多く、他の町のいい部分を切り取ってしまう部分もあるように思う。また、情報発信力が弱いというのは私も感じているところで、農業・漁業・観光業を軸とした素材に恵まれているが、十分に発信できていない。逆にいうと情報発信について伸びしろは十分あると思うので、工夫していきたい。
- 総務部長：若い世代では子育てを第一に考え、仕事や居住よりも優先的に考える傾向が強い。斜里町でも子育て分野で足りない部分を埋めていく必要がある。
- ・畑谷委員：私のこどもは知床ウトロ学校に通っていたが、自分もウトロ学校に通っていたら人生変わったかもねと言っている。学校内で賞状やメダルを貰う機会を学校側が多く設けてくれ、更に全校生徒の前で授与式がある等、頑張ることができる環境であった。小さなことの積み重ねではあるが、いい意味でこどもが勘違いをしていくことで、視野が広くなるといったことにつながると思う。
 - ・教育長：物・情報も住む地域によっての差はほとんどなくなっており、地方に住むデメリットはかつてと比較して大幅に減っている。
 - ・町長：自身が高校に通っていた時はウトロから来ている生徒がいて、新たな交流が増えたと感じた。交流については現在ではオンラインで行うことができ、様々な交流を行うことは、こども達の視野を広げるために不可欠な要素の一つである。
 - ・大谷指導主事：今のこども達はデジタル社会で育っており、斜里町に住んでいても海外の会社に勤めるといった形での就労も増えてくると思う。デジタル社会に対応する受け皿を作る必要がある。